

LL _____
LLLLLL ■■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ 産学連携学会メールニュース
LLLLLL ■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ _____
L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ J-SIP Mail
L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ _____
L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ L■■■■■ 発行：産学連携学会（編集WG）
LL 第887号 <2018.1.29>

当メールニュースではイベントのお知らせや公募情報等、
産学連携に関する情報をお流しいたします。
会員の皆様への情報の配信をご希望の方は、news@j-sip.org
あるいは産学連携学会事務局（j-sangaku@j-sip.org）までお寄せください。
バックナンバー：http://j-sip.org/mail_news.htm

[[[[ヘッドライン]]]]

★★産学連携イベントのお知らせ★★

第8回産学連携学会リサーチアドミニストレーション研究会を開催します

開催日時：平成30年3月10日（土）13：30～15：40
開催場所：東京工業大学大岡山キャンパス 本館3階 H136 講義室

◆ 第8回産学連携学会リサーチアドミニストレーション(RA)研究会 ◆
（日本知財学会大学発イノベーション分科会との共催）

1. 開催趣旨
平成23年度の文部科学省事業「リサーチ・アドミニストレーター（以下URA）を育成・
確保するシステムの整備」（URA整備事業）および「研究大学強化促進事業」を通じて全
国の大学にURAの配置が進み、その学内外での「認知度」は確実に高まってきています。
一方でURAシステム導入の「効果」については評価が分れています。
その原因の1つに個々のURA、研究推進担当部署、執行部、関連官庁および外部関係者の
中で思い描く「URAの果たすべき役割」が共有されておらず、またその業務内容（短期お
よび中長期を含む）も税金を原資とする競争的資金獲得に注力し過ぎている点があるよう
に思えます。

もはや URA は黎明期ではありません。今後、URA システムが着実に発展し、社会に貢献していくためには、ここで URA に関するいくつかの「根源的な問い」について URA 関係者でじっくり考える必要があるのではないのでしょうか。

このような問題意識から、URA 整備事業推進委員会評価小委員会等で URA に深く関係してこられた（独）工業所有権情報・研修館 理事長である三木俊克先生と URA との対話を実施することにいたしました。

開催ポリシーでもある“立場を超えてフラットに対話する研究会“という位置づけとして生の意見をぶつけ合うことで、URA の現状および意義等についてじっくり考えたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしております。

2. 開催日時

平成30年3月10日（土） 13:30～15:40

3. 開催場所

東京工業大学大岡山キャンパス 本館3階 H136 講義室

<http://www.titech.ac.jp/maps/index.html>

4. 内容

「URA に一緒に？考えてほしいこと～対話を通して～」(仮)

13:30～13:35 URA による対話の意義（趣旨説明）

13:35～14:30 講演 ～URA への問題提起～
工業所有権情報・研修館 理事長：三木俊克氏

14:30～14:40 休憩

14:40～15:40 グループディスカッションおよび三木理事長との対話

5. 対象および参加費

URA、研究支援業務従事者およびその管理者等。参加費は無料。

※定員50名

6. 申込締切

平成30年3月2日（金）

※定員に達した場合、早期に締め切ることがあります

7. 参加申込

下記申し込みフォームから必要事項を記入の上お申し込み下さい。

【申し込みフォーム】

<https://ws.formzu.net/fgen/S52752189/>

8. 問い合わせ先

ra-sangaku@j-sip.org （RA 研究会専用アドレス）

RA 研究会への加入希望等についても、同アドレスにご連絡をお願いいたします。

代 表 馬場大輔（岐阜大学）

幹 事 原 隆（東京工業大学）

内島典子（北見工業大学）

伊藤慎一（秋田大学）

以上